

「偉い」と「立派だ」の意味分析

梶原彩子

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

kajiwara.ayako@a.mbox.nagoya-u.ac.jp

1. はじめに

(1) 民家の敷地内で汚泥の除去や荷物の運び出しなど後片付けを手伝った。(中略) 全身泥だらけになった24日は民家の家主に会い、母親と思われる女性から疲れ切った表情で「ありがとう」と声をかけられた。別の被災女性からは「若いのに偉いわね」と励まされた。(朝日 2011/05/12)

(2) 「偉い人間なんかなくていいから、立派な人間に」(朝日 2007/11/5)

以上の例文を見ると、(1)の「偉いわね」を「立派ね」に言い換えても文全体の意味は大きく変わらず、両語は類義関係にあると言える。しかし両語は形式も異なるため、意味には相違点がある。例えば、(2)のような同一文脈の両語を入れ替えて、「立派な人間にならなくていいから、偉い人間」と言うと文全体の意味が大きく変わってしまう。また、(3)のように、使われ方によって褒め・皮肉どちらにもなり得、日本語学習者にとっても使い分けが難しいと考える。

(3) 外国人は自分の家族の写真を人に見せるのが好きで(中略)「父はここ」と言うと「立派なお父さんですね！おなかも立派ですね」。ただの食べ過ぎで出っ張っている腹のどこが立派だか分からない！(中略) 日本人の褒め方と皮肉が僕にはいまひとつ理解できなかった(中日 1992/01/19)

本稿では、「偉い」と「立派」をその複数の意味間に関係がある多義語と考え、意味を分析し、その複数の意味と、両語の意味の共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1 『大辞林』(第3版)での記述

えら・い【偉い・豪▽い】(形) [文]ク えら・し

- ① 人物や行動などが普通の人よりはるかにすぐれているさま。偉大だ。
「一・い学者」「一・い指導者」
- ② 高い地位にあるさま。大きな勢力をもっているさま。
「政府の一・い人」「この土地の一・い人」
- ③ 程度がはなはだしい。大変だ。ひどい。連用形「えらく」は副詞的にも用いられる。「一・く疲れた」「一・い人ごみだ」
- ④ 非常に都合が悪い。困った。
「これは一・いことになった」
- ⑤ 身体的につらい。苦しい。
「階段の上り下りが一・い」
[派生] 一が・る（動ラ五〔四〕）・一さ（名）

りっ ぱ【立派】（形動） [文] ナリ

〔派を立てるの意。また、「立破」の転かとも〕

- ① 非常に素晴らしいさま。非常にすぐれているさま。
「一な業績」「一な品物」
- ② 堂々としているさま。
「一な態度」「海に臨んで一なる西洋風の層楼あり / 花間鶯鉄腸」
- ③ 非難する点のないさま。十分であるさま。
「もう一な大人だ」「一にやってのける」
[派生] 一さ（名）

2.2 『現代形容詞用法辞典』（1991）での記述

「偉い」（頁：92-93）

- ① 人や行為が立派で、賞賛や尊敬に値する様子を表す
「おれがやったんだぞ」「あんたはえらい」
- ② ①から進んで、社会的地位が高い様子を表す
「そんな心がけではえらくなれない」
- ③ 物事が簡単にはできず困難な様子を表す
「足の悪い人が駅の階段を上るのはえらい」
- ④ ③から一步進んで、困難でたいへんだ、とんでもないという意味を表す
「やれやれ、えらい目にあつた」「えらいことをしてくれたな」
- ⑤ 程度がはなはだしい様子を表す
「今日はまたえらく寒い日だ」「着いてみたら故郷はえらい雪だった」

「立派だ」(頁:596) プラスイメージの語

① 非常にすぐれている様子を表す

「こんなにりっぱなものをいただいて恐縮です」

「この子は将来りっぱな人になるに違いない」

② 完全である様子を表す

「彼女は難事業をりっぱにやりとげた」

「小さな店だが、彼は母親と二人でりっぱにやっている」

「十八にもなればもうりっぱな大人だよ」

「変にお思いでしょうが、これにはりっぱな理由があるんです」

「他人の文章を丸写しするのはりっぱな犯罪だと言える」

辞書での記述を検討すると、「偉い」は5つの意味記述が辞書ともに共通しており、比較対象は「普通の人間」である。また、「偉い」は社会性を問題とするために、人間やその行為にしか使うことができない。一方、「立派だ」の意味の区分は辞書によって差がある。また、「偉い」では「普通の人」とあった比較対象が明記されていない。「人間やその行為が非常にすぐれているさま」という意味が「偉い」「立派だ」に共通している意味であり、(4)でも、やはり両語が言い換え可能である。しかし、「立派」は(4)(5)どちらでも使えるが、言えるはずの「人間の優れた行為」でも、(5)では「偉い」とは言いにくい。

(4)「お兄ちゃんもお利口で待ってられるね。偉いねと声をかけました。(中日 2010/11/16)

(5)社長「個人資産を100億寄付する。」社員「ご立派(*偉い)ですね。」

3. 「偉い」の多義的別義

別義①: <話題の人間やその行動が><普通の人間と比べ><行為の質が上だと捉えられるさま>

別義②: <話題の人間が><普通の人間と比べ><社会的に上だと捉えられるさま>

別義③: <話題の対象が><話者が予想する標準値から><大きく離れていると><捉えられるさま>

別義④: <話題の人物や事柄が><社会的規範から><外れていると><捉えられるさま>

別義⑤: <話題の行為が><肉体的に困難であると><捉えられるさま>

4. 「立派だ」の多義的別義

別義①：＜話題の物や事柄が＞＜カテゴリーの中の成員として＞＜好ましい状態であると判断できるさま＞

別義②：＜話題の人間の行為が＞＜話者がそのカテゴリーの成員に持つ理想像に＞＜近いと感じられるさま＞

別義③：＜対象が＞＜あるカテゴリーの中の成員に通常求められる基準を＞＜最低限＞＜満たす状態だと感じられるさま＞

5. 類似点と相違点

「偉い」の別義①と「立派だ」の別義②の意味が共通している。従って、(1)の例は、「偉い」と言った場合は、一般的な大学生の行動と比べて、話題の対象の行為の質が上と感じている。また、「立派ね」と言った場合は、大学生の行動が、被災者女性が若者に持つ理想像に近いと感じるさまだと解釈できる。(2)の「偉い人にならなくてもいいから、立派な人間に」という文は、「社会的に上位の人間にならなくてもいいから、理想的な人間」になってほしいという意味なので、「立派な人にならなくてもいいから、偉い人になって欲しい」と言うと文全体の意味が変わってしまうと考えられる。

参考文献

國廣哲彌（1982）『意味論の方法』大修館書店

辞典類

『大辞林』（第三版）

大野晋 浜西正人（1985）『類語国語辞典』角川書店

グループジャマシイ著（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版

柴田 武、山田 進（2002）『類語辞典』講談社

田忠魁 金相順 泉原省二（1998）『類義語使い分け辞典』研究社出版

飛田良文 浅田秀子（1991）『現代形容詞用法辞典』東京出版

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店

例文の出典

朝日新聞 DB『聞蔵Ⅱビジュアル』（1879年～2012/09/14）

中日新聞・東京新聞記事データベース

Yahoo!知恵袋（検索日：2012/08/29）